

# あいち農産物生産流通レポート

平成22年8月号

情報サロン		
・日持ちの良い一輪ギク「愛知夏黄(なつき)2号」の開発 (農業総合試験場).....		1
地域トピックス		
・JAあいち海部の「ゆめのか」苺のパンが発売されました (海部農林水産事務所).....		2
東日本情報		
・北海道地域秋冬野菜販売反省会と釧路市公設地方卸売市場 (東京事務所).....		3
西日本情報		
・地産地消研修会・交流会を開催しました (食育推進課).....		5
フラワーページ		
・フラワードリーム2010で愛知の花をPR (東京事務所).....		7
青果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場) .....		9
・名古屋・東京市場における青果物の8月の見通し .....		10
花き		
・切花・鉢花の8月の見通し(県内市場) .....		22
輸出入		
・主要農産物の輸出入実績(2010年5月) .....		26
関連指数 .....		27

内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所行政課農産物流通対策グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6417

## 日持ちの良い一輪ギク「愛知夏黄<sup>なつぎ</sup>2号」の開発

愛知県は、出荷量3億8千万本、全国シェア40%<sup>\*</sup>の全国1位の一輪ギクの産地です。農業総合試験場では、品種改良や栽培技術の開発に取り組み、これまでに白色の「白粋」、黄色の「愛知夏黄1号」など主に業務需要向けの品種を開発してきました。今回紹介する「愛知夏黄2号」は、お盆やお彼岸に仏壇やお墓に供える花として家庭での利用に適した品種で、切り花の日持ち性が良いのが特長です。キクの生産者の組織である愛知県花き温室園芸組合連合会きく部会と共同で開発しました。

<sup>\*</sup> 農林水産統計（農林水産省大臣官房統計部平成22年5月31日公表）

### 育成経過

「愛知夏黄2号」の開発は、2004年、当场育成の夏秋系黄色一輪ギクのうち、草姿の良い系統と生育旺盛な系統を交配して得た約12,000粒の種子からスタートしました。2007～09年の3年間にわたる生産者による試作や2009年6月からの市場への試験出荷を行った結果、大変高い評価を得たことから、2010年6月9日に種苗法に基づき品種登録を出願しました。

### 「愛知夏黄2号」はこんな花

- ・ 艶のある鮮やかな黄色で、形の良い花です。
- ・ 花と茎葉のバランスが良く、仏壇やお墓のお供えや家庭で飾るのに適したコンパクトな草姿です。
- ・ 切り花の日持ちが良く、長期間花を観賞できます。

### 栽培の特徴

- ・ 夏秋系のキクで、6～9月のどの時期でも定植から開花までの日数にバラツキが少なく、計画的に出荷できます。
- ・ 生育旺盛で草丈の伸びが良く、栽培期間が短縮できます。
- ・ 出荷後の輸送中に葉が傷みにくく、切り花の品質が低下しません。
- ・ 摘蕾作業の省力化が可能な無側枝性です。



「愛知夏黄2号」は、現在、知多地域を中心に栽培が始まっています。2012年度には作付面積10ha、400万本の出荷を目指します。

## JA あいち海部の「ゆめのか」 苺のパンが発売されました

JA あいち海部管内で今年収穫されたいちご「ゆめのか」を使用した地産地消の菓子パンが、6月30日（水）から愛知、岐阜、三重のココストアのベーカリー店舗（44店舗）で発売されました。

このパンは、愛知県期待のいちご「ゆめのか」の甘さと酸味のバランスの良さを活かした絶妙な味わいのジャムとホイップクリームを店内で焼き上げたふんわりとした柔らかなパンでサンドしたもので、外観もピンクのベレー帽のようなかわいらしいパンに仕上がっており、1個130円で販売されています。

ココストアとJA あいち海部とのコラボは、今年1月29日（金）に開催された愛知県主催の「農商工連携ビジネスフェア」がきっかけとなりました。県下有数のいちご産地で「ゆめのか」のブランド化を図りたいJA あいち海部と、平成16年から「いいともあいち運動」のネットワーク会員として愛知県内の優秀な農産物を使用した商品開発を積極的に進めるココストアが意気投合し、東海3県での販売が実現しました。



ココストアで販売される「ゆめのか」 苺のパン

JA あいち海部の担当者は、『当地域は「ゆめのか」の県下最大の産地。まだまだ「あまおう」「紅ほっぺ」ほどの知名度はありませんが、これを機会に知名度を高めてこの地域の「ゆめのか」を全国区にしたい』と意気込みを語ってくれました。



現在開発中の特産レンコンを使った冷菓  
(企業秘密のため、興味がある方はJA あいち海部まで直接、お問い合わせください。)

このほかにも、JA あいち海部では管内で生産される農産物を使った加工品の開発に積極的に取り組んでおり、これまで「あいちのかおりうどん」や「れんこんうどん」などを開発販売してきました。今後も地域の農産物の特徴を活かした魅力ある新商品が登場し、地域の活性化につながることを期待しています。

## 北海道地域秋冬野菜販売反省会と釧路市公設地方卸売市場

北海道は広大な農地を持ち、国内の農業産出額において都道府県別では、常にトップに位置しています。そうした一大産地ですが、本県にとっては秋冬野菜の重要な消費地の一つとなっています。

今回、北海道地域における本県産野菜の反省会が開催された結果と開催地の釧路市公設地方卸売市場の概要を紹介します。

## 1 北海道地域秋冬野菜販売反省会

猛暑が席卷する本州とは一転して、雨模様の天気が続く気温 17 の北海道釧路市で、7月22日(木)にJAあいち経済連と取引のある7社が集まり、平成21年度北海道地域秋冬野菜販売反省会が開催されました。

本県から北海道へ出荷されている主な品目はキャベツ、白菜、ブロッコリーですが、その大半を占めるキャベツを中心に、販売経過と市場情勢について意見交換が行われ、以下のとおり、次年度の販売に繋がるような活発な意見が数多く出されました。

## &lt;販売経過&gt;

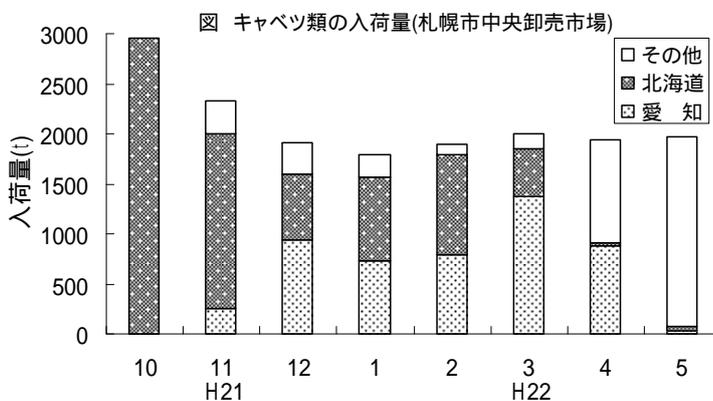
本県農産物の販売は10月にスタートしたが、夏秋産地の残量が多く単価的に厳しい販売開始となった。年内は単価安傾向で年末には寒波の影響から相場が高騰した。年明けすぐは、年末の高値反動から相場が低迷したが、1月中旬以降は堅調な相場展開であった。

2月になり、雨、雪、寒波の影響から安定出荷とならず、相場も乱高下を繰り返す状況となり、その傾向はゴールデンウィーク明けまで続いた。

## &lt;市場情勢&gt;

北海道では秋に収穫されたキャベツを畑に並べて、冬の間、雪の中で貯蔵して春までの期間に雪の中から掘り出して、少しずつ出荷する越冬(貯蔵)キャベツがある。

今期はその作柄が不良であったため出荷量が3~4割減少となり、その分、道外産に頼らざるを得ない状況であった。特に愛知県産は秋冬期キャベツの二大産地のひとつという重要な位置を占めている(下図参照)。そうした中で愛知県産は当初の情報では台風の影響はほとんどないと聞いていたが、小玉傾向で徐々に影響が出てきたように思われる。



春先からの天候不順の影響もあり生育遅れや品質不良など影響が出るなど、例年になく相場が乱高下した。それでも量販店は相場の高いキャベツを売り込んだため注文量が多く、数量を確保するのに苦労していた。

また、トラック輸送と比較し低コスト、環境に優しく、輸送時間も短いなどからJRコンテナによる輸送は近年、増加しつつある。

<まとめ>

北海道地域では愛知県産農産物、特にキャベツは秋冬期において道内産とシェアを二分するほどの出荷量を占めており、冬場の産地として愛知県はたいへん重要な位置にある。道内の消費者にとって愛知県産農産物は欠かせないものとなっているので、今後とも積極的な出荷をお願いしたい。

2 釧路市公設地方卸売市場

釧路市公設地方卸売市場は、昭和48年から30年余りを中央卸売市場として開場してきたが、200海里漁業規制により漁業基地として繁栄した釧路市の漁業が衰退するとともに、青果物の消費も減少し、4年前に地方卸売市場として指定管理者による市場運営となりました。

そのせいか、市場内で行われる移動ぜりに、心なしか活気が無いように感じられました。

1) 主な沿革

- ・昭和48年：釧路市中央卸売市場（青果）として業務開始
- ・平成元年：花き部業務開始
- ・平成18年：中央卸売市場から地方卸売市場への転換  
指定管理者による市場運営開始
- ・平成22年：卸売業者（青果1、花き1）、  
仲卸売業者（青果4、花き1）、売買参加者（青果92、花き83）



釧路市公設地方卸売市場

2) 地方卸売市場への転換の背景

取扱数量及び金額の減少

- ・地域小売店の廃業や営業形態の転換
- ・大型量販店による市場外流通の増加
- ・消費者ニーズの多様化

市場流通を取り巻く環境の変化

- ・委託集荷割合の減少
- ・相対取引の増加

3) 釧路市公設地方卸売市場における取扱状況

年度別取扱数量・金額推移表

		H17	H18	H19	H20	H21
数量 (トン、千本、千鉢)	青果	35,927	35,545	37,518	36,650	39,871
	花き	10,305	11,094	12,312	11,505	9,918
金額 (千円)	青果	8,173,552	9,024,930	9,280,671	8,721,605	9,270,094
	花き	631,215	756,646	850,860	774,564	679,188
	合計	8,804,767	9,781,576	10,131,531	9,496,169	9,949,282

産地別取扱割合

- ・青果物：釧路管内6.4%、釧路管外33.8%、道外59.8%
- ・花き：釧路管内0.6%、釧路管外30.5%、道外68.9%

## 地産地消推進研修会・交流会を開催しました

愛知県がすすめる地産地消の取組み「いいともあいち運動（ 1 ）」の活動状況や地産地消の事例を紹介し、新たな商品開発やビジネスを生み出すことを目的とした「地産地消推進研修会・交流会」を、平成22年7月29日(木)に名古屋市中区丸の内名古屋銀行協会大ホールで開催しました。

これは、愛知県が「いいともあいちネットワーク（ 2 ）」の会員から、地産地消に関する具体的な事例紹介の場を提供してほしいとの要望を受けて、地産地消の先進的事例を紹介する「研修会」と、ネットワーク会員が生産・開発した生鮮・加工食品を持ち寄り「新たな出会いの場」をつくる「交流会」を開催し、農商工連携による新商品の開発や新たな販路の拡大を図るものです。

地域でとれた食材を地域で消費する、いわゆる「地産地消」の取組みは、安全・安心な食材を求める消費者意識の高まりを受けて、近年注目を集めています。

また、平成20年7月には「農商工等連携促進法」が施行され、地域経済を支える農林漁業者と商工業者が連携して新商品の開発や販路の開拓に取り組む「農商工連携」に関心が集まっています。



研修会の様子

愛知県では、平成10年から県産農林水産物の県内消費を高める取組み「いいともあいち運動」を推進しており、幅広い業種からなる「いいともあいちネットワーク」を構築し、情報提供や会員間のネットワークづくりを進めてきました。

昨年1月に「農商工連携交流会」を、本年1月には「農商工連携ビジネスフェア」を開催し、県産農産物を使用した新商品の開発・販売につなげてきました。

今回の催しは、昨年までの成果を踏まえ、ネットワーク会員への情報提供の要素を加え、地産地消活動のさらなる推進を目指すものです。

### 1 「いいともあいち運動」

消費者と生産者が今まで以上に“いい友”関係になる

イート モア アイチ プロダクツ

Eat More Aichi products = もっと愛知県産品を食べよう(利用しよう)

### 2 いいともあいちネットワーク

愛知の農産物の地産地消に取り組む・賛同する機関・団体 782 会員 (H22.7.20 現在)

構成: 生産者団体 175、流通関係者 381、消費者団体 79、行政機関・NPO等 147



この催しには、県産農林水産物及びその加工品を扱う39の企業・団体が参加し、250名を超える参加者(生産者、食品会社、流通関係者等)でにぎわいました。

## 1 研修会の内容

### (1) 「いいともあいち運動」の活動状況紹介

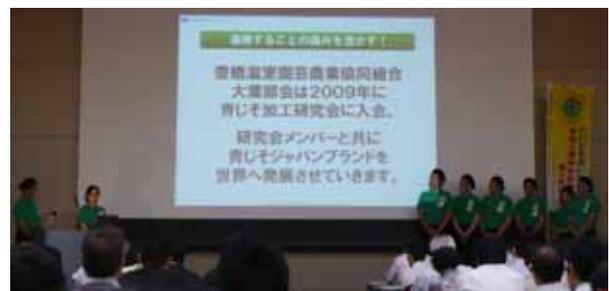
ネットワーク会員の増加やいいともあいちシンボルマーク貼付商品の拡大等、活動の輪が広がる「いいともあいち運動」の現状について紹介されました。

### (2) 「知多牛を使ったビーフシチューの開発」

(株)山田家の山田代表取締役から、「知多牛を使用したビーフシチュー等のレトルト食品の製造・販売事業」が、昨年7月に農商工連携促進法に基づく国の認定を受けるにあたっての苦心や、認定を受けたことで変わったこと、変わらないことについて紹介がありました。

### (3) 「青じそ加工研究会の活動」

生産額全国1位を誇る豊橋産青じそを活用した数々の新商品を生み出している「青じそ加工研究会」から、豊橋温室園芸農協の富永部長による生産者としての新商品開発への関わりについての報告が、食農産業クラスター推進協議会の横山氏からは、農商工連携でブランドを確立し、知名度を上げてきたこれまでの取り組みについての報告がありました。



青じそ加工研究会

### (4) 「学校給食で広がる地産地消」

昨年、国から「地産地消の仕事人」に選定された愛知県栄養教諭・学校栄養職員研究協議会の林会長から、これまでの学校給食への地産地消に向けた取り組みを通じて得た、地産地消を進める上での課題とコツについての紹介と、給食施設の規模による傾向分析等の紹介がありました。

## 2 交流会

いいともあいちネットワーク会員が生産、開発した愛知県産生鮮・加工食品の試食・展示が行われました。

出展内容

愛知県産の農産物

愛知県産水産加工品

愛知県産畜産物・畜産加工品

コンビニエンスストア等によるいいともあいちシンボルマーク貼付商品 等



交流会の様子

会場は熱気に包まれ、多くの来場者が入れ替わり各出展者のブースを訪れて愛知産農林水産物やその加工品を吟味し、真剣に話しこむ様子が見られました。

## フラワーDream2010で愛知の花をPR

東京ビックサイトにおいて、7月3日(土)～5日(月)、フラワーDream 2010(主催:日本生花通信配達協会[JFTD・花キューピットグループ])が開催されました。花き業界が行う国内最大級のイベントで、ジャパンカップ(全国から選考されたフローリストのアレンジメントコンテスト)、JALカップ(公募によるアレンジメント、ブーケのコンテスト)、プリザーブドフラワーコンテストなどの競技が行われました(下写真)。



このようなコンテストのほか、「60歳を迎える最も輝いている著名人」を表彰するHappy Ross Awardに元プロ野球監督の「東尾修」さん、その年のトレンドを踏まえ、テーマカラーや品種を設定し、そのユリに最も似合う女性を決定するMs.Lily賞には「堀北真希」さんが選ばれ表彰式がおこなわれるなど、華やかさをちりばめたイベントとなりました。

同会場内にはフラワーマーケットが設けられ、昨年に引き続き、JA あいち経済連が輪ギク、スプレーギク、スプレーバラ、ひまわり、アルストロメリア、トルコキキョウ、観葉植物、鉢物などをPR販売しました(下写真)。また、ひまわり農協バラ部会がブース横にバラ品種展示コーナーを設け、品種のPRも行いました。

さて、今回は愛知の目玉として、「フルブルームマム」(品種名:岩の白扇等、精の枕)を販売しました。「フルブルームマム」とは花が満開するまでハウス内で育てたキクのこと、ボリューム感のあるドーム状の大輪に育ちます。これまでの輪ギクは仏花や祭壇が主な用途でしたが、「フルブ



ルームマム」は仏花はもとよりブライダル、アレンジメントなど様々な用途に利用が期待される花材です。一見して輪ギクと一線を画するこの大輪には存在感があるのか一般客の関心も高く、「これは何の花」と質問する客が多くみられました。また、満開であるため「日持ち」に関する質問が多く寄せられ、「日持ちは通常の輪ギク以上です」と説明すると、興味を示して購入する客が多くみられました(右写真)。



ところで、今回は昨年に比べて生花を販売する団体が非常に多く客の分散化が目立ち、販売面では厳しい状況にありました。特に安価で販売した4～5輪のユリなど値ごろ感のある花に人気が集まる一方で、コチョウランなど高価な鉢物の販売は厳しいようでした。

あいち経済連のブースは、切り花の品揃えが多く安価であったことに加え、共同出店した「なにわ花市場」が用意したくじ引きによる花束プレゼントが功を奏したことなどから順調に販売することができました。「フラワードリーム」に集まった人たちは、いわゆる花き業界関係者または生花店の常連客など、花に造詣の深い人たちが多くはいますが、来客の中には「愛知県が日本一の花産地」であることを知らない客も予想以上に多くみられました。

今後も情報発信力のあるこれらの花き関係者に対して、「愛知の花」を一層、PRする必要があるものと思われます。



ひまわり農協バラ部会の品種展示コーナー



お客さんと賑わうJAあいち経済連のブース

# 愛知産青果物の動向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内  
 や や : ± 3 ~ 5 % 台  
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台  
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

## 名古屋市中央卸売市場（品目：巨峰）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
21年実績	431	174 (40%)	768	716	山梨 (42%) 長野 (17%)
22年見通し	430	-	750	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>地元愛知、山梨、長野等から入荷する。                      4月以降の天候不良により、生育は遅れ気味で、梅雨明けが早かったことからやや玉伸び不足が懸念される。                      作付面積は各産地とも減少傾向で、種なし品種への転換が進む。                      入荷量、価格ともに、前年並となる見込み。</p>			<p>消費者の低価格志向、重油の高価格から、長野では露地栽培への転換が進む。                      大粒のピオーネや、皮ごと食べられる品種は人気がある。                      珍しい品種は高い単価を維持しているためブランド戦略も重要である。                      気温上昇に伴い傷みやすくなるので、出荷の際は病気がないものを選んでほしい。</p>		

## 東京都中央卸売市場（品目：いちじく）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
21年実績	510	275 (54%)	549	589	和歌山 (34%) 静岡 (5%) 埼玉 (4%)
22年見通し	500	-	555	-	
概 要 と 見 通 し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>ハウスものから露地ものへ切り替わる時期となる。愛知を中心に和歌山、静岡などから入荷する。和歌山の生育は平年よりやや遅れているが、梅雨後の好天で回復しつつある。                      入荷量は前年並で、価格も前年並と見込まれる。</p>			<p>夏から秋の果物として定着している。本県産地は、数量・品質ともにトップレベルにあり、量販店からも支持されている。このためトップブランドとして、一層の品質管理や等級別選果に努めてほしい。                      また、作柄や出荷情報について、今まで以上に迅速に市場に連絡してほしい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の8月の見通し

名古屋市中央卸売市場

7月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜	17年	33,119	193	178	213	188	北海道 30%
	18年	33,256	208	200	195	227	長野 20%
	19年	32,946	208	191	210	220	群馬 9%
	20年	34,757	184	203	193	159	兵庫 7%
	21年	32,613	237	228	254	231	
	計	5ヵ年平均	33,338	206	-	-	-
22年見通し	33,600	201	-	-	-		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は高冷地や北海道、東北に移行。天候不順による生育遅れも回復傾向で、昨年来不足が続いた土もの入荷量も回復し、全体的に順調な入荷を見込む。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							
だい	17年	2,301	87	53	95	115	北海道 62%
	18年	2,316	98	143	87	72	青森 23%
	19年	2,146	89	65	74	120	岐阜 8%
	20年	2,110	84	89	96	73	群馬 4%
	21年	2,008	120	116	139	111	
	計	5ヵ年平均	2,176	95	93	97	98
22年見通し	2,000	90	90	90	90		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は北海道中心。播種期に低温で生育時は高温だったため、とう立ちが多く見られるなど、品質は低下する見込み。上旬まで量は少なめだが、中下旬は順調な入荷が見込まれる。 入荷量は前年並みで、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。							
に	17年	2,874	99	94	88	111	北海道 91%
	18年	2,335	155	227	165	115	青森 9%
	19年	2,790	64	78	46	63	岐阜 0%
	20年	2,407	103	86	102	120	茨城 0%
	21年	2,533	156	152	165	152	
	計	5ヵ年平均	2,588	113	124	111	111
22年見通し	2,400	140	150	130	140		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は北海道中心。青森は中旬で終了予定。天候不順の影響で生育は遅れているが徐々に回復する。作付面積は前年並みであるため、順調な入荷が見込まれる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。							

東京都中央卸売市場

7月26日現在

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	17年	132,422	179	164	186	187	北海道 20%
	18年	123,710	246	285	240	217	群馬 16%
	19年	127,643	221	217	224	221	長野 11%
	20年	127,676	210	190	200	216	青森 8%
	21年	122,784	254	246	269	248	(愛知産比率 0%)
	5カ年平均	126,847	222	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	123,000	240	-	-	-	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>関東高冷産地に加えて、東北、北海道からの入荷が中心となる。東北や関東産地は梅雨明け以後の猛暑の影響を受けて生育停滞と品質低下が懸念される。 入荷量は前年並みで、価格は前年をやや下回る見込み。</p>							
だいこん	17年	9,417	83	52	96	104	北海道 65%
	18年	10,249	93	121	91	72	青森 25%
	19年	10,028	85	59	77	116	岩手 8%
	20年	10,363	83	86	94	73	群馬 1%
	21年	9,667	112	112	124	104	(愛知産比率 0%)
	5カ年平均	9,945	91	86	96	93	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	10,200	92	91	93	92	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道、東北産地中心の入荷となる。北海道は5月の天候不順のため播種の遅れがあったが8月には回復する。青森はにんにくやにんじんの収穫と重なり出荷量が減少傾向。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
にんじん	17年	6,639	107	100	102	118	北海道 87%
	18年	5,687	182	241	189	134	青森 8%
	19年	7,611	72	82	56	73	中国 3%
	20年	6,288	111	95	114	120	千葉 1%
	21年	6,452	159	158	168	152	(愛知産比率 0%)
	5カ年平均	6,535	123	131	122	117	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	6,800	110	105	115	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道からの入荷が中心となる。北海道は6月下旬に高温が続いたが作付けは前年並み、8月前半から出荷量のピークが始まる見込み。青森は降雨により品質不良が散見される。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							

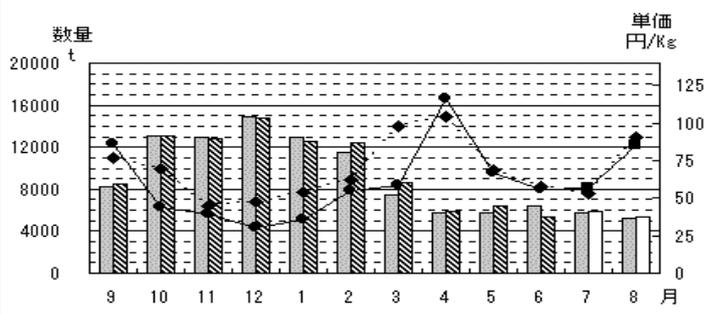
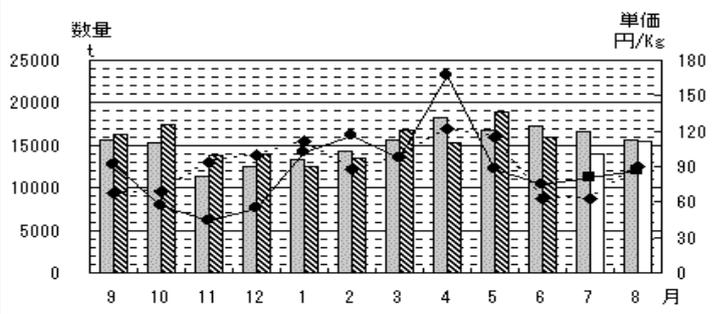
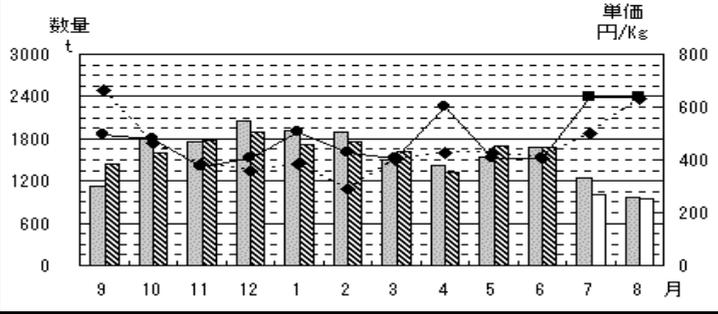
名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	17年	2,502	76	68	74	85	長野 96% 北海道 4% 茨城 0%
	18年	2,381	123	143	145	92	
	19年	2,549	89	81	90	94	
	20年	2,148	82	70	80	96	
	21年	1,768	99	79	90	122	
さい	5カ年平均	2,269	93	89	96	96	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	1,800	80	70	80	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野中心。北海道は盆過ぎに入荷。前月は入荷が集中して産地廃棄が発生したが、今月も入荷時期の集中が懸念される。天候不順により、品質は低下し棚もちが悪い。入荷量は前年並みで、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
キャベツ	17年	4,020	57	46	61	64	群馬 68% 長野 20% 北海道 9%
	18年	3,943	110	106	128	101	
	19年	4,436	112	114	108	114	
	20年	4,141	66	66	67	65	
	21年	3,887	93	73	96	110	
べつ	5カ年平均	4,085	88	82	92	91	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	4,000	85	80	85	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は群馬、長野の高原もの中心。北海道が出てくる。高冷地の天候不順による日照不足や定植の遅れなどから生育は遅れ気味で小玉傾向。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ほうれんそう	17年	213	716	600	725	852	岐阜 83% 北海道 7% 長野 3% 茨城 3%
	18年	213	757	790	661	795	
	19年	248	680	694	514	805	
	20年	190	816	736	792	902	
	21年	239	724	662	811	714	
れんそ	5カ年平均	221	735	695	695	809	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	220	750	700	750	800	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は岐阜の高原もの中心。長野、北海道からごく一部入荷。上中旬までは順調に入荷する見込み。下旬は高温のため入荷量が減り、盆過ぎから徐々に単価が上昇する見込み。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	17年	6,162	61	49	57	74	長野 85%
	18年	5,110	137	169	180	88	群馬 9%
	19年	6,039	80	74	81	84	北海道 4%
	20年	5,658	72	55	66	91	茨城 2%
	21年	5,250	91	68	83	117	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	5,644	87	81	91	90	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
22年見通し		5,300	85	80	85	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>前月に引き続き長野からの入荷が中心となる。長野の生育は良好に推移している。群馬の生育も順調に推移している。最近の高温の影響による出荷量の減少が後半から出て来る見通し。入荷量は前年並み、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					 <p>数量 t / 単価 円/kg</p>
キャベツ	17年	15,298	53	43	57	62	群馬 77%
	18年	14,597	105	99	126	98	岩手 13%
	19年	14,546	110	109	107	114	北海道 5%
	20年	15,246	62	60	65	60	青森 2%
	21年	15,689	90	67	94	107	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	15,075	84	75	89	88	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
22年見通し		15,500	86	82	90	86	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬及び東北、北海道からの入荷が中心となる。群馬の生育は平年並みであるが、小玉傾向。岩手は長雨、降雹の影響から平年より出荷量が減少する。北海道は生育が順調。入荷量は前年並み、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					 <p>数量 t / 単価 円/kg</p>
ほうれんそう	17年	926	670	497	728	818	栃木 23%
	18年	955	668	705	570	711	茨城 23%
	19年	890	654	570	591	791	群馬 21%
	20年	839	714	660	767	716	岩手 18%
	21年	966	632	594	666	639	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	915	667	605	662	734	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
22年見通し		940	635	620	630	655	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岩手と関東高冷地からの入荷となる。栃木は作付けがわずかに増加し、生育も概ね順調。岩手の生育は7月の曇天から少なめの出荷となっている。群馬は高温により生育が停滞傾向。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並みの見込み。</p>					 <p>数量 t / 単価 円/kg</p>

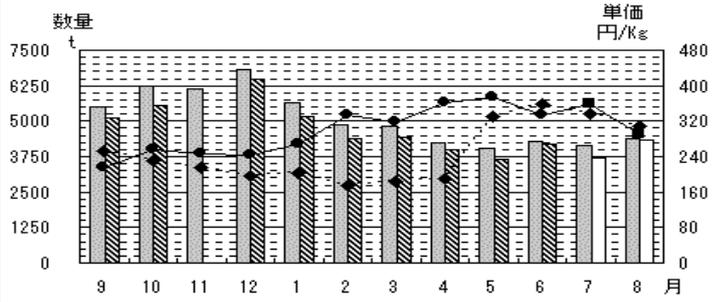
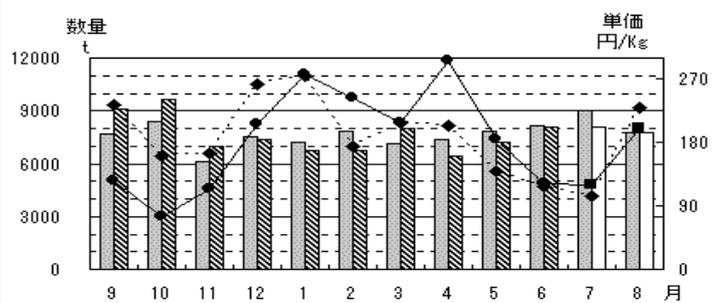
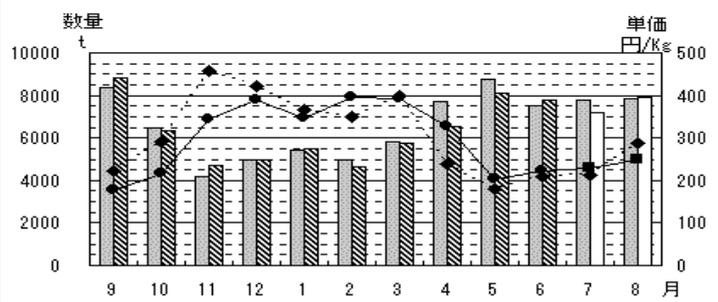
名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	17年	897	373	354	386	381	愛知 24%
	18年	830	450	456	481	424	北海道 23%
	19年	876	465	472	511	433	茨城 10%
	20年	888	402	353	418	431	富山 9%
	21年	947	426	402	476	413	
	5カ年平均	888	423	406	454	416	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	900	430	420	450	420	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		産地は、愛知の長ねぎと、北海道、富山、茨城の白ねぎ。愛知はGW後の天候不順から生育が遅れていたが回復傾向。北海道からの入荷は遅れる見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並みとなる見込み。					
し	17年	2,315	124	100	137	134	長野 99%
	18年	2,352	176	221	176	147	群馬 1%
	19年	2,224	233	241	251	211	愛知 1%
	20年	2,180	143	121	145	160	茨城 0%
	21年	2,000	233	182	279	243	
	5カ年平均	2,214	180	173	195	177	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	2,200	150	130	160	160	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		産地は前月に引き続き長野中心で、高温期に入るため、品質・作柄は不安定となる見込み。昨年のように盆時期の大雨がなければ、順調な入荷が見込まれる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。					
きゅう	17年	1,909	176	120	186	226	長野 43%
	18年	1,732	262	346	180	261	北海道 17%
	19年	2,316	221	166	233	276	秋田 9%
	20年	1,529	285	210	231	432	岩手 9%
	21年	1,443	310	284	322	323	
	5カ年平均	1,786	245	218	227	297	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	1,600	280	240	290	300	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		産地は長野を中心に、北海道、岩手、福島。各産地とも作付面積は減少。近年、8月は降雨や高温で生育が落ち込むため、下旬の品薄が予想される。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。					

東京都中央卸売市場

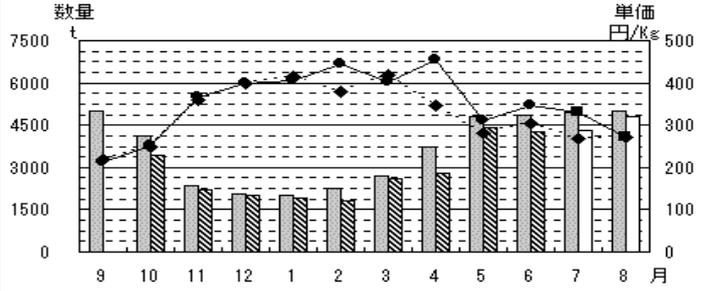
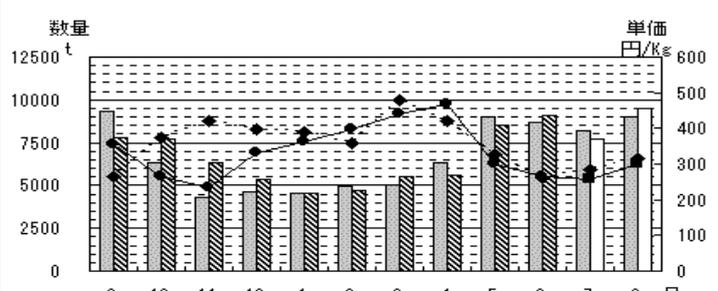
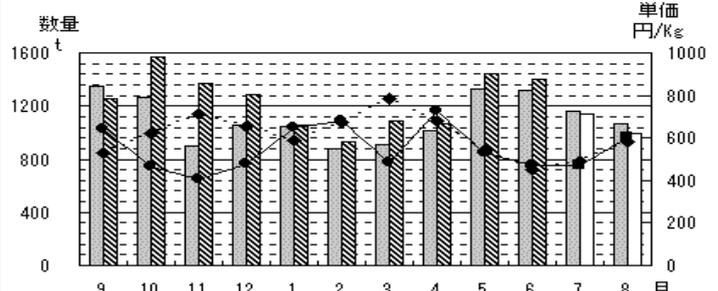
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	17年	4,330	229	201	268	224	茨城 34%
	18年	4,157	287	314	319	247	青森 22%
	19年	4,246	294	265	391	261	千葉 7%
	20年	4,428	274	221	288	306	秋田 7%
	21年	4,401	308	310	393	247	(愛知産比率 -%)
	5ヵ年平均	4,312	278	262	332	257	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	4,350	290	270	300	300	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		茨城、青森からの入荷が中心となる。茨城の生育は順調であるが、8月後半から秋作の作物に取りかかるため、出荷量が減少傾向。青森は盆明けから本格的な出荷となる。 入荷量は前年並みで、価格はやや前年を下回る見込み。					
しそ	17年	9,072	114	88	127	127	長野 81%
	18年	8,285	168	214	162	137	群馬 14%
	19年	7,802	216	228	235	193	岩手 2%
	20年	8,245	141	120	139	161	茨城 1%
	21年	7,802	229	183	274	240	(愛知産比率 -%)
	5ヵ年平均	8,241	171	164	185	170	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	7,800	200	195	210	195	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		長野からの入荷が中心となる。長野の生育は順調で平年並み。群馬は降雨の影響から平年より少なめの出荷となっている。 入荷量は前年並みで、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。					
きゅうり	17年	9,075	149	101	160	195	福島 45%
	18年	8,417	242	340	142	248	岩手 24%
	19年	8,552	239	199	212	304	秋田 11%
	20年	7,750	237	168	176	408	宮城 4%
	21年	7,847	289	266	298	301	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	8,328	229	213	196	288	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	7,900	250	250	230	270	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		東北産地からの入荷が中心。福島は露地は樹勢や生育良好であり、8月盆に出荷ピークの見込み。岩手、秋田は高温多雨から収量がやや減少傾向、出荷ピーク8月上旬まで。 入荷量は前年並み、価格は前年をかなり下回る見込み。					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	17年	1,446	167	222	131	155	愛知 24%
	18年	1,138	311	412	340	231	山梨 23%
	19年	1,222	262	335	324	177	徳島 18%
	20年	1,123	204	205	166	257	群馬 10%
	21年	1,092	269	266	270	268	
	5ヵ年平均	1,204	239	285	241	213	
22年見通し	1,000	260	250	270	270	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は愛知、山梨、徳島、岐阜。各産地で天候不良から夏秋ものの生育がやや遅れているが、中下旬にはまとまった入荷が見込まれる。雨で収穫できないことによる入荷量の増減がある時期。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや下回る見込み。							
ト マ ト	17年	1,987	232	219	214	262	岐阜 52%
	18年	1,892	322	307	302	351	北海道 38%
	19年	1,971	273	267	231	314	愛知 10%
	20年	1,735	216	193	191	272	長野 7%
	21年	1,647	342	193	312	419	
	5ヵ年平均	1,846	276	238	249	321	
22年見通し	1,650	250	200	250	300	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は岐阜、北海道、青森、愛知。促成ものの生育遅れと夏秋ものの出荷が重なり、月の前半は入荷が集中し大玉傾向だが、後半は小玉傾向。 入荷量は前年並みで、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。							
ミ ニ ト マ ト	17年	329	397	384	374	426	北海道 75%
	18年	319	594	623	620	561	長野 11%
	19年	344	474	529	440	456	山形 5%
	20年	310	411	360	349	520	
	21年	337	570	546	528	626	
	5ヵ年平均	328	490	490	463	517	
22年見通し	330	515	500	500	550	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は北海道中心で愛知は終了へ。北海道は天候不良による生育遅れも回復し、月の前半は入荷が集中する見込み。後半は小玉に移行するため、入荷量は落ち着く見込み。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。							

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
なす	17年	5,915	147	167	134	139	栃木 31%
	18年	5,083	286	368	288	231	茨城 27%
	19年	5,622	237	291	318	159	群馬 20%
	20年	5,122	208	192	157	291	埼玉 9%
	21年	5,025	271	277	282	257	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	5,353	227	257	234	212	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
22年見通し	4,800	272	275	273	268		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地からの入荷が中心となる。栃木は梅雨明け後、まとまった降雨がなく干ばつ傾向で樹勢が弱っている。茨城産は作付け面積がやや増加。高温による影響が心配されるが出荷は平年並み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並みの見込み。</p>					
							
トマト	17年	10,864	194	181	185	217	青森 24%
	18年	9,865	288	317	240	306	福島 17%
	19年	10,206	239	229	204	287	群馬 13%
	20年	9,232	227	214	188	295	岩手 10%
	21年	9,003	317	296	294	363	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	9,834	251	246	220	291	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
22年見通し	9,500	300	295	290	315		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>東北産地からの入荷が中心となる。青森は現在最初のピークとなっている。品質良好でこのまま推移する見込み。群馬の樹勢が弱っていたが、8月上旬には回復見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
							
ミニトマト	17年	1,044	378	361	364	407	岩手 25%
	18年	1,019	583	608	579	566	北海道 23%
	19年	1,195	464	471	475	450	福島 19%
	20年	1,194	405	384	372	460	青森 9%
	21年	1,064	580	556	587	597	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	1,103	479	473	473	494	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
22年見通し	990	600	590	620	590		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岩手、福島に加え北海道からの入荷が増えてくる。北海道は日照不足の影響でやや生育が遅れている。岩手、福島は梅雨明け以降の猛暑で、樹勢が弱り出荷が少ない傾向である。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
							

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	17年	754	210	230	190	208	岩手 45%
	18年	574	344	567	373	237	北海道 33%
	19年	550	307	376	261	286	福島 9%
	20年	549	244	222	245	259	
	21年	477	349	358	373	327	(愛知産比率 0%)
マ	5カ年平均	581	284	344	280	258	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	470	320	350	320	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は岩手、北海道中心で、茨城は終了。岩手の作付面積は前年並みで、北海道は若干減少。天候不順による生育遅れから産地移行は遅れている。 入荷量は前年並みで、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。</p>					
ばいしよ	17年	3,501	132	131	142	126	北海道 60%
	18年	2,660	124	138	128	110	青森 37%
	19年	2,498	89	86	89	91	愛知 1%
	20年	2,860	95	90	98	95	
	21年	2,295	178	238	194	129	(愛知産比率 0%)
い	5カ年平均	2,763	123	133	129	111	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	2,500	160	180	170	125	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は北海道中心で、青森は上旬から入荷し、盆前にピークを迎える。長崎は中旬から順調に出荷。北海道は天候不順による生育遅れも6月中旬以降の好天から回復し、順調な入荷を見込む。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。</p>					
たまねぎ	17年	4,647	79	86	80	72	兵庫 58%
	18年	5,192	82	100	94	67	北海道 30%
	19年	4,522	72	82	67	68	愛知 6%
	20年	5,430	67	58	65	74	中国 3%
	21年	4,127	130	133	149	118	
ね	5カ年平均	4,783	84	90	89	79	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	4,500	110	120	110	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は兵庫の淡路中心で、順調な入荷が見込まれる。北海道は盆前後からの入荷で、生育は順調。佐賀は終了。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	17年	2,451	161	204	143	138	岩手 44%
	18年	2,132	350	642	325	200	茨城 26%
	19年	2,212	253	326	217	223	福島 14%
	20年	2,139	203	179	207	219	青森 10%
	21年	2,027	320	330	359	284	(愛知産比率 -%)
マ	5カ年平均	2,192	254	332	246	210	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	2,000	320	310	340	310	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岩手、茨城、福島からの入荷が中心。岩手は高温で花落ちが見られやや収量が少ない。茨城は春ピーマンから秋ピーマンに切り替わる。福島は1週間程度の遅れが見られる。 入荷量は前年並みで、価格も前年並みの見込み。</p>					
ばいしょ	17年	5,585	138	144	145	130	北海道 75%
	18年	5,442	128	141	124	119	青森 9%
	19年	5,325	93	91	93	93	千葉 5%
	20年	5,833	103	100	105	103	茨城 5%
	21年	5,619	179	226	200	136	(愛知産比率 0%)
い	5カ年平均	5,561	128	141	134	116	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	5,600	170	180	190	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷が中心。北海道は天候不順の影響で植え付けが1週間から10日遅れ、その分出荷も遅れたが盆前には回復する見込み。盆以降本格化するが、小玉傾向。 入荷量は前年並みで、価格は高かった前年をやや下回る見込み。</p>					
たまねぎ	17年	10,348	84	86	84	81	兵庫 32%
	18年	10,230	93	102	95	85	北海道 26%
	19年	10,332	79	81	81	75	佐賀 25%
	20年	11,236	78	71	80	83	中国 13%
	21年	9,205	141	140	151	136	(愛知産比率 0%)
ね	5カ年平均	10,270	94	95	97	91	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	10,000	95	95	98	92	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>佐賀、北海道、兵庫からの入荷が中心。佐賀、兵庫の貯蔵ものは梅雨明け以降安定した天気で乾燥も進み、潤沢の入荷となる。北海道は盆明けから入荷が本格化となりL玉中心。 全体の入荷量は前年をかなり上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。</p>					

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
果実計	17年	16,896	292	303	298	271	長野 23%
	18年	14,281	345	359	344	328	フィリピン 16%
	19年	13,436	356	353	344	370	愛知 13%
	20年	13,660	330	361	335	286	山形 11%
	21年	12,670	319	340	297	312	
	5カ年平均	14,189	327	-	-	-	
	22年見通し	12,200	320	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>春の天候不順の影響で、全体的に5日から1週間の生育遅れ。主力のすいか、メロンはGW前の着花不良で量が少ない。消費者の低価格志向から入荷量が減少しても価格は上がらない見込み。 入荷量は少なかった前年をやや下回り、価格は前年並みとなる見込み。</p>					
アールスメロン	17年	451	521	521	555	456	愛知 55%
	18年	429	522	524	506	556	静岡 34%
	19年	396	558	529	550	666	茨城 5%
	20年	383	529	548	526	478	高知 3%
	21年	334	474	460	473	525	
	5カ年平均	399	522	-	-	-	
	22年見通し	320	500	600	450	500	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は愛知と静岡中心で、愛知は上旬にピークを迎える。各産地とも大玉傾向で箱当たり5玉中心となるが、作付面積は前年に比べて減少しており、入荷量はやや減る見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
すいか	17年	2,933	122	114	133	131	山形 36%
	18年	2,898	148	146	143	158	長野 34%
	19年	2,799	174	158	175	211	青森 13%
	20年	2,635	160	193	168	69	秋田 13%
	21年	2,390	119	117	116	131	
	5カ年平均	2,731	145	146	148	141	
	22年見通し	2,500	140	140	140	140	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は山形、長野中心。生育は3日から5日程度の遅れ。作付面積は前年に比べて減少。作柄は良く入荷は順調な見込みで、上中旬に出荷のピークを迎える。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
果実計	17年	52,379	267	268	273	258	山形 18%
	18年	46,035	320	309	324	329	フィリピン 10%
	19年	42,798	345	323	356	364	山梨 9%
	20年	44,671	312	337	328	265	長野 8%
	21年	45,955	293	310	285	283	(愛知産比率 1%)
	5ヵ年平均	46,368	306	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	45,500	300	-	-	-	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>すいか、なし、もも中心に入荷する。すいかは梅雨明け後の好天で生育が回復。ももは福島を中心に大玉傾向の見込み。なしは春先の降雪、雹害により着果不良、生育遅れがみられる。 全体の入荷量は前年並みで、価格は前年をわずかに上回ると見込まれる。</p>					
アーメロン	17年	953	477	487	524	394	静岡 38%
	18年	865	520	515	537	508	茨城 29%
	19年	752	586	508	636	676	愛知 12%
	20年	770	491	601	510	362	山形 6%
	21年	715	459	476	442	456	(愛知産比率 12%)
	5ヵ年平均	811	506	517	530	475	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	700	470	510	490	420	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>静岡、茨城中心に愛知、山形から入荷する。静岡は作付面積が減少。生育は天候不順で遅れていたが好天で回復。茨城、愛知の生育も概ね順調である。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格はわずかに上回ると見込まれる。</p>					
すいか	17年	12,663	118	106	129	138	山形 51%
	18年	11,644	140	129	142	174	秋田 15%
	19年	10,872	176	147	191	230	長野 14%
	20年	10,881	161	184	168	88	青森 8%
	21年	10,813	120	115	115	138	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	11,375	142	135	148	153	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	10,600	145	165	140	130	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>山形を中心に秋田、長野、青森などから入荷する。山形の生育は順調で、肥大も良好である。長野は高齢化等により栽培面積が減少。秋田の生育はやや遅れ気味で着果も少ない。 全体の入荷量は前年並みで、価格は前年を大幅に上回るものと見込まれる。</p>					

# 切花・鉢花の8月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 7月28日現在）

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	18年	3,615	59	
		19年	3,940	63	
		20年	3,442	64	
		21年	3,395	53	
		4ヶ年平均	3,598	60	
	22年見通し	3,400	55		
概要	愛知、長野、三重から入荷。愛知は梅雨明け以降気温が高くなり、やや遅れが見られる。前月後半から続く高値傾向が盆まで続く見込み。色物については、長野の露地物が1週間程度の前進だったが、今月の需要期にピークを迎えると予想される。				
小 ぎ	実績	18年	3,006	39	
		19年	3,677	33	
		20年	2,822	37	
		21年	2,625	36	
		4ヶ年平均	3,033	36	
	22年見通し	2,700	35		
概要	愛知、長野、奈良、埼玉等から入荷。全体では露地もの中心で、遅れている産地と前進している産地が混在する。前月後半から徐々に増加し、山のないガラガラ出荷になる見込みで、ピークがない分価格は安定して推移すると予想される。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	18年	1,275	45	
		19年	1,370	45	
		20年	1,105	43	
		21年	1,092	45	
		4ヶ年平均	1,210	45	
	22年見通し	1,100	45		
概要	長野、北海道などから入荷。梅雨明け後の高温の影響が心配されるが、盆に向けての生育は順調。前半は盆需要により堅調に推移するが、後半は需要減によりやや苦しい展開が予想される。				
か す み	実績	18年	107	104	
		19年	119	101	
		20年	113	98	
		21年	92	117	
		4ヶ年平均	108	104	
	22年見通し	100	110		
概要	長野、北海道、福島から入荷。今月は数量減が見込まれる。前月後半からの高温により、後半から9月上旬まで出荷分の生育が悪くなり、丈も短くなると予想される。高温により花持ちも悪くなるため、入荷が多ければ、価格的には苦しい展開となる。				

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	18年	579	143	
		19年	592	139	
		20年	492	142	
		21年	486	145	
	4ヶ年平均		537	142	
	22年見通し		500	142	
概要	新潟、岐阜、北海道等から入荷。生育は順調だが、品質面では前月前半の豪雨で曲りなどの被害の出ている産地もある。入荷量は前年よりやや多めで、価格は前年並み。後半は高値はないものの安定した価格で推移すると予想される。				
洋らん	実績	18年	435	87	
		19年	524	73	
		20年	393	85	
		21年	441	75	
	4ヶ年平均		449	80	
	22年見通し		440	75	
概要	愛知、静岡、沖縄と輸入ものが入荷。盆に向けて、デンファレをはじめ洋らん類の需要は若干高まり堅調となる。ただし高温の影響で、出荷、輸送、販売各段階で傷みが発生する恐れがある。輸入デンファレはアンナが少なく、盆需要にはソニア中心となる見込み。				
ばら	実績	18年	816	46	
		19年	831	48	
		20年	644	53	
		21年	798	50	
	4ヶ年平均		772	49	
	22年見通し		800	50	
概要	長野、愛知、岐阜、青森、山形などから入荷。気温の上昇にともない暖地産が減少することで入荷は少なめとなる見込み。品質差が広がり、上位等級は堅調な動きとなるが、下位等級の販売状況はきびしくなる見込み。				
枝も	実績	18年	1,812	58	
		19年	1,946	59	
		20年	1,695	57	
		21年	1,756	56	
	4ヶ年平均		1,802	58	
	22年見通し		1,800	56	
概要	静岡、長野、福岡などから入荷。8月前半は盆需要で、法月、シキミ、サカキ、チラ、高野槇の引合いはかなり強いが、稽古休みの時期に入るため、その他の花材の単価はきびしい。後半も山取り以外は苦しい展開。				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
スパティフィラム	実績	17年	13,910	224	
		18年	20,504	196	
		19年	9,973	280	
		20年	13,254	208	
		21年	4,921	284	
	5ヶ年平均		12,512	225	
	22年見通し		4,500	250	
概要	<p>入荷量は昨年より減少か。高温期で花持ちが悪く、動きは厳しそう。中鉢より小鉢の方がより厳しそう。                      昨年8月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位三重(50%)、2位愛知(34%)、3位岐阜(11%)となっている。</p>				
ミニバラ	実績	17年	7,335	110	
		18年	4,235	123	
		19年	6,383	79	
		20年	1,942	159	
		21年	3,973	177	
	5ヶ年平均		4,774	119	
	22年見通し		3,900	160	
概要	<p>入荷量は昨年並みか。高温期で花持ちが悪く、また需要期ではないので、動きは厳しそう。                      昨年8月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位岐阜(43%)、2位三重(26%)、3位山口(24%)となっている。</p>				
ドラセナ類	実績	17年	52,483	463	
		18年	33,310	685	
		19年	35,959	562	
		20年	23,724	625	
		21年	28,646	522	
	5ヶ年平均		34,824	558	
	22年見通し		28,000	500	
概要	<p>入荷量は昨年並みか。主体はコンシ、マッサンの7~8号の中鉢で、大鉢は少なそう。中鉢お動きは良さそうだが、大鉢は厳しそう。                      昨年8月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位愛知(75%)、2位三重(7%)、3位沖縄(6%)となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
アンスリウム	実績	17年	18,521	979	
		18年	14,988	1,074	
		19年	15,142	1,107	
		20年	14,124	973	
		21年	16,684	963	
	5ヶ年平均		15,892	1,017	
	22年見通し		16,000	950	
概要	<p>入荷量は昨年並みか。4～6号鉢の動きは厳しそう。7～10号鉢はランの代品需要で引き合いは良さそう。                      昨年8月の主要県の入荷実績（金額ベース）は、1位愛知（92%）、2位三重（8%）となっている。</p>				
オンシジウム	実績	17年	6,388	1,005	
		18年	5,530	865	
		19年	5,340	957	
		20年	4,000	820	
		21年	5,963	779	
	5ヶ年平均		5,444	890	
	22年見通し		6,500	700	
概要	<p>入荷量は昨年より増加か。ここ最近の天候不順により、開花が遅れ、この月に集中しそう。ただ花持ち等の品質に問題がありそう。全体的に動きは厳しそう。                      昨年8月の主要県の入荷実績（金額ベース）は、1位愛知（63%）、2位長崎（17%）、3位高知（10%）となっている。</p>				
シャコバサボテン	実績	17年	13,533	417	
		18年	13,171	408	
		19年	7,163	429	
		20年	4,464	526	
		21年	13,643	373	
	5ヶ年平均		10,395	414	
	22年見通し		10,000	350	
概要	<p>入荷量は生産量減により減少か。関東の山上げ商品3・5～6号が主体で、大鉢は少量となりそう。全体的に動きは厳しそう。                      昨年8月の主要県の入荷実績（金額ベース）は、1位埼玉（58%）、2位茨城（22%）、3位茨愛知（21%）となっている。</p>				

# 主要農林水産物の輸出入実績(2010年)

## 1 輸入実績

品名	5月						5月までの累計					
	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比
	トン	%	千円	%	円/kg	%	トン	%	千円	%	円/kg	%
野菜(生鮮・冷蔵)	56,985	140.9	5,913,913	144.4	104	102.5	327,507	130	32,583,919	135	99	95.5
トマト	109	91.7	36,048	96.4	331	105.1	1,507	237	595,735	311	395	145.3
たまねぎ	19,527	161.2	1,067,574	199.1	55	123.5	130,513	193	6,564,265	235	50	132.5
にんにく	1,274	92.1	210,115	199.6	165	216.6	7,470	93	1,140,033	187	153	146.1
ねぎ	3,465	143.1	341,323	121.2	99	84.7	18,287	159	1,668,237	154	91	90.7
ブロッコリー	3,426	95.5	675,354	119.3	197	124.9	12,922	115	2,428,422	123	188	115.5
結球キャベツ	2,974	163.5	133,609	175.9	45	107.6	10,618	106	420,089	118	40	109.9
にんじん・かぶ	6,394	227.4	364,826	224.3	57	98.7	16,985	99	915,800	99	54	106.5
ごぼう	2,456	115.4	149,420	143.2	61	124.1	13,517	97	739,356	137	55	125.2
えんどう	179	1052.9	56,956	1359.3	318	129.1	1,065	267	289,597	365	272	122.0
アスパラガス	534	126.9	312,266	119.6	584	94.3	7,313	121	3,453,094	112	472	85.1
まつたけ	-	-	-	-	-	-	-	0	-	0	-	-
しいたけ	209	95.1	59,568	102.5	284	107.8	2,933	125	731,966	138	250	106.5
かぼちゃ	11,082	119.5	940,954	144.7	85	121.1	78,988	98	5,254,855	112	67	109.6
果実(生鮮・乾燥)	175,599	92.9	26,717,216	103.9	152	111.8	808,623	92	94,606,337	99	117	104.8
バナナ	99,697	82.7	7,641,084	74.3	77	89.8	458,537	84	31,823,301	78	69	94.2
パイナップル	12,377	90.0	723,613	77.7	58	86.3	54,573	95	3,294,980	90	60	96.3
レモン	4,288	125.5	604,465	153.2	141	122.1	19,447	100	2,652,677	119	136	117.9
オレンジ	9,147	102.1	910,013	105.8	99	103.6	46,703	102	4,494,549	98	96	98.8
グレープフルーツ	5,814	67.8	627,565	77.7	108	114.6	97,024	101	10,255,794	105	106	119.5
メロン	4,714	117.5	526,053	122.6	112	104.3	14,375	87	1,616,789	85	112	106.8
ぶどう	1,390	268.4	201,940	236.5	145	88.1	6,882	134	1,058,915	138	154	83.1
キウイ	16,522	154.8	5,489,416	165.9	332	-	25,679	133	8,425,860	141	328	97.7
いちご	13	93.9	10,656	90.7	822	-	34	70	24,271	78	707	79.5
切花(生鮮・乾燥)	2,463	106.8	1,913,835	100.3	777	94.0	16,334	112	12,032,945	110	737	100.3
鳥獣肉類	140,981	105.8	62,159,302	109.9	441	103.8	687,780	103	291,956,080	101	424	99.7
牛肉(くず肉含む)	36,154	111.9	15,725,850	119.2	435	106.5	185,088	101	76,479,640	109	413	106.8
豚肉(くず肉含む)	64,757	104.5	34,000,878	104.6	525	100.1	306,304	100	160,570,179	100	524	100.0
鶏肉	32,971	104.3	7,876,353	116.4	239	111.7	164,812	121	35,618,583	94	216	92.8
水産物(生鮮・冷蔵・冷凍)	148,194	94.2	76,096,667	93.6	513	99.4	719,443	99	352,072,397	92	489	93.9
まぐろ類	17,919	105.0	14,958,755	107.3	835	102.2	86,443	93	63,675,748	71	737	85.2
さば・さんま・あじ・いわし	4,611	75.8	746,264	76.0	162	100.2	39,156	67	6,133,529	60	157	90.8

## 2 輸出実績

果実(生鮮・乾燥)	277	59.3	184,189	68.8	665	115.9	13,708	130	4,109,539	145	300	101.6
うんしゅうみかん	5	110.0	7,134	97.2	1,371	88.3	227	216	96,134	139	423	315.0
りんご	234	62.9	79,437	67.6	340	107.5	13,193	130	3,639,774	150	276	106.6
なし	-	-	-	-	-	-	43	363	18,314	294	424	105.3
野菜(生鮮・冷蔵・乾燥)	-	-	204,786	66.0	-	-	-	-	1,063,699	89	-	-
緑茶	160	92.1	327,567	109.7	2,049	119.1	830	106	1,579,634	118	1,903	108.9

資料 農林水産省大臣官房統計部「農林水産物輸出入情報」

# 関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数 <span style="font-size: small;">(全国 平成17年 = 100)</span> <span style="font-size: x-small;">(愛知県 平成17年 = 100)</span>				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
全 国	21年平均	100.3	103.3	98.9	105.6	104.4
	22年 1月	99.4	107.8	95.0	104.4	103.1
	2月	99.3	107.1	91.8	104.1	101.6
	3月	99.6	107.6	92.2	104.0	102.2
	4月	99.6	125.1	89.0	103.3	102.5
	5月	99.7	116.8	104.0	102.9	102.9
愛 知 県	21年平均	100.9	100.6	100.0	102.4	103.6
	22年 1月	99.3	96.8	94.7	102.4	99.4
	2月	99.2	97.4	90.1	104.7	97.5
	3月	99.5	96.1	90.5	104.0	100.7
	4月	99.4	114.4	86.5	101.1	100.7
	5月	99.4	110.1	96.7	100.8	101.1

項目 年月		農業物価指数 (平成17年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
全 国	21年平均	95.7	98.0	100.7	91.5	98.5
	22年 1月	96.7	97.0	110.5	76.2	96.4
	2月	98.4	97.0	113.6	85.4	97.9
	3月	102.2	97.0	118.3	80.4	97.1
	4月	105.4	97.4	126.0	90.2	97.4
	5月	97.8	97.1	106.2	91.3	99.1

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」  
愛知県・愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち米 (単一品種、「コシ加」以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご(ふじ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
21年平均	2,236	158	172	603	419	313	142	314	203	510	615	201	447
22年 1月	1,995	131	121	641	501	286	130	249	232	579	561	208	367
2月	1,995	173	124	567	483	315	148	273	254	562	600	187	369
3月	1,987	150	157	565	460	317	152	255	246	559	607	163	376
4月	1,995	218	270	669	571	375	194	362	247	493	746	171	423
5月	1,978	224	246	701	470	369	163	364	259	434	620	195	476
品目 単位 年月	みかん	グレープフルーツ	オレンジ	いちご	バナナ	キウイフルーツ	緑茶(せん茶)	カーネーション	きく	バラ	豚肉(ロース)	牛肉(ロース)	まぐろ
	1 kg			100g	1 kg		100g	1 本			100g		
21年平均	604	312	382	143	254	682	603	162	166	326	223	752	479
22年 1月	491	304	393	145	232	695	565	148	168	299	236	788	472
2月	484	291	373	137	245	636	546	149	156	301	216	815	444
3月	527	277	366	138	237	670	560	149	168	304	233	812	454
4月	-	266	333	122	239	681	557	155	162	300	234	705	441
5月	-	278	333	120	228	724	557	166	153	302	220	700	420

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



あいち農産物生産流通レポート 446  
平成22年8月発行  
農林水産部食育推進課  
〒460-8501  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 (052) 954-6417